短歌の部

最優秀賞

初めての城崎温泉夫の病完治を願う湯けむりの中

茨城県ひたちなか市　石崎　千代美

今を去る千三百年前、道智上人が難病の人々を救うために開いた温泉寺が城崎温泉の原点。道智上人の祈りに心を寄せてはるばる城崎を訪れた。夫の病気の完治を祈る切実な心願は湯けむりのなかに湧き上がり、純で一途な願いとして上人はお聞き届けになるはずだ。

優秀賞

城崎の湯浴衣姿の老夫婦親を重ねてふと電話する

奈良県奈良市　河野晴菜

浴衣姿の老夫婦を見て、同じ年恰好である親の姿を見たように思えた。そしてふと声を聞きたくなったと言う。せわしない日常生活の中で、時々思い出す昔のこと、肉親のやさしい声音。それは何物にも代えがたい安らぎであり、理屈を超える生命の根源だ。素直な思いがよく詠めている。

湯の里に寒波到来軒先のつららのカーテン朝日に煌めく

兵庫県加古川市　橘　真希

寒波が来ると言うその朝。身も心も寒さに向かって緊張している。いよいよ朝日が昇る。その朝日の光線がつららに映えて輝いている。鋭角的なきりっとした気持ちと光景を想い背筋も伸びてくるようだ。

仁王立ち古代の息吹き玄武洞銀河をうつす円山川面

大阪府大阪市　村橋照善

玄武洞の姿に圧倒的な歴史の現実を見、円山川の水面に映る今の大銀河を見る。時空を超えて迫る大自然の絶景は昼夜を問わず心に迫ってくる。彼と此とを掌中におさめ壮大な気分にひたる。ひたひたと迫る感動のさざなみに酔っているように思える。

孤独な夜城崎の湯に身を沈め葛藤の影湯気に溶けゆく

大阪府大阪市　村上哲也

大勢で湯を楽しむだけが温泉の効用ではあるまい。悩みを抱え来て湯につかり静かに自分と向き合い瞑想してみる。孤独な時間のなかに次第にみえてくることがある。そしてあたらしい生き方を悟ることもある。かつての文人がしたように。城崎はそのような場でもあろう。

インバウンド効果もたらし湯の里は外国ことば飛び交い賑やか

兵庫県美方郡　國谷由喜子

賑わっている城崎をそぞろ歩くと笑顔からこぼれ出る多様な言葉におどろく。同時に、聞いているこちらにもお互いに城崎の風情を満喫している声音と弾む気持ちが伝わってくるようで嬉しくなるのだ。四季折々の城崎の素晴らしさを世界に宣伝してほしいとも願う。

入　選

寒椿ひとり佇む城崎に風が静かに心を撫でる

温泉の貸し切り嬉し露天風呂湯気で霞んだ雪景色

遥かなる記憶の中に思い出を辿る旅路の城崎温泉

城崎の旅情に躰を委ねればそっと肩沿う冬のゆけむり

下駄の音と家族の鼻歌聴きながらそぞろ歩くは夜の城崎

東京都新宿区　小林えま

兵庫県姫路市　村井愛子

愛知県稲沢市　吉田恵子

東京都渋谷区　伊東凛人

京都府京都市　吉田早紀

車椅子乗りし母の背舞い降りてふわりととける城崎の雪

京都府福知山市　山口秀樹

似合うでしょ妻はんなりと浴衣着て夢二絵姿外湯巡りて

大阪府大阪市　甘利麻紀子

再訪を願いし夫は胸の内思い出巡る城崎の町

山口県周南市　野村貞江

文芸館足湯につかり文庫読み語り合はせむかの文豪と

大阪府大阪市　木元豊子

夜桜の雪洞浮かぶ水鏡大谿川は春の宴よ

兵庫県豊岡市　今井登美子

鸛鶴の傷を癒せし鴻の湯にわれも腰痛治しに浸かる

兵庫県豊岡市　谷口爻一

生くことと死ぬこととある静けさの城の崎の地に川は流れる

東京都新宿区　川崎千草

「死はきっと生の近くにいるんだよ」「そんなことより今日パスタだよ」

東京都新宿区　本間まどか

灯籠の規則正しくある道で傷口に夜気が染み込んでいる

東京都新宿区　田口茉優

花筏流れる川の青空に映える柳の緑目映い

兵庫県豊岡市　川原美也子

湯めぐりとかしまし娘食べ歩き羽織りし浴衣華やぐ笑顔

大阪府四條畷市　今井優子

温泉とか松葉蟹とか味わってないけどいつか書きたい「城の崎にて」を

東京都新宿区　亀井愛

橋の上揺れる灯籠下駄の音裾を濡らす文月の雨

静岡県静岡市　大石桃子

いたずらな雨がどんどん滲んでいく孤独な蜂も泣いているかも

東京都新宿区　岩崎麗子

城崎の橋に積りし雪に残る子供の手形と鳥の足跡

東京都新宿区　中村心遥

湯気立つや温熱だけが染みわたり肌も心もとろけてく

東京都新宿区　新谷桃子

城崎の湯けむり昇る静かさに温もり包む孤独の心

東京都新宿区　渡辺安葉

掌に残る感触命とはこんなに軽くこんなにも重い

東京都新宿区　門井莉来

城崎の湯に浸かりふと思い出す小説の神様も来たのだと

東京都新宿区　久保田　ひなの

今ここに足を地に着け立てるのもただの偶然そんな寂しさ

東京都新宿区　堀　珠己

皆いない冷えた瓦に横たわる蜂一匹をじっと見つめて

東京都新宿区　古谷亜子

寒空の心も体もあたためる麗しきかな城崎の宿

東京都新宿区　笹沼紗里衣

カラコロと音の鳴る街湯を巡り友と語らう新生活を

大阪府和泉市　石井陽菜

残雪を踏み締めてゐる旅人と木の葉を誘ふ城崎の湯気

兵庫県尼崎市　大沼遊山

城崎で夫婦の湯下駄カタカタと十年後思う我目を閉じる

兵庫県尼崎市　荒川としみ

朝靄に浮かぶ小舟の汽水域競う湯けむり城崎の街

兵庫県豊岡市　畑中照久

からころと下駄の音軽く響きおり湯の香やさしや城崎の街

兵庫県朝来市　前田吉幸

湯のまちの夏の夜空に夢花火遠い記憶が心を揺らす

兵庫県朝来市　桐山徹郎

辛きことありとて笑顔忘れえぬ優しき人に城崎の湯を

福井県あわら市　浅野直美

「今どき」の若者はといわれた吾傘寿の吾は熱き湯に入る

兵庫県豊岡市　四角澄朗

明けやらぬ湯の街うつす街川を茜に染めて日の昇り来

兵庫県豊岡市　髙岡千春

新婚のころの約束今叶う城崎にての蟹と温泉

静岡県伊豆の国市　髙田圭子

城崎はやさしき人とお湯ありて手術跡（きずあと）かくす心は緩む

奈良県奈良市　甲斐田八重

湯巡りしカランコロンと定宿に衣を返し親の夢見む

東京都足立区　佐藤春夫

星を背に滝音と燃ゆ葉を眺むれば身も包まるる城崎の湯かな

東京都練馬区　岡嶋拓志

褒めくれし姉妹旅行を掘りおこしそぞろ歩きす城崎の街

大阪府羽曳野市　赤澤皆

温もりを浴衣につつみ外つ国の人も行き交ふ湯めぐりのさと

山梨県甲府市　佐野一彦

湯巡りを共に行きたし雪の街響く下駄の音遥か遠くに

兵庫県姫路市　中島保

人繋ぎ言葉(ことのは)紡ぎ歴史編むこの想い出も城崎(まち)の一部に

神奈川県横浜市　岡崎貴樹

日が落ちて水面に映える灯籠が昼間の暑さぬぐいさるかに

大阪府高槻市　太治ミサ子

コロナ明けて英語、ハングル、中国語とびかうお店でかに寿司を食む

京都府京都市　小坂純一郎

とくとぷっとやわらかな湯に白みゆく城崎の空にコウノトリゆく

京都府京都市　寺澤由美子

雪道を踏み締め湯へと歩み進め冷えた身体へご褒美時間

兵庫県川西市　寺前春菜

我の名を間違えて呼ぶ母の手をしっかり握り巡る城崎

兵庫県川西市　木内美由紀

心身の疲れを癒しに城崎へ一月後にはまた来たいなぁ

高知県高知市　時光知鶴

社会人見えない疲れ溜まってた城崎の湯が癒してくれた

大阪府大阪市　井上沙季

「寒いね」と吐く息白く暖簾まで友と早足温き心よ

東京都小金井市　中西絵理奈

入湯の心得母国語に訳すひと城崎の香ほんのりまとう

愛媛県松山市　池田敦子

城崎の朝に香るシャンプーとセーターに残る昨晩のカニ

大阪府枚方市　吉川琢巳

水いらず初めて訪ねるきのさきでふとよみがえる二人の京都

滋賀県大津市　藤島崇史

霧雨に降られて歩く道中も是れ湯冷ましと華になりけり

兵庫県川西市　萩原早帆子

カニ過ぎて柳萌え出づ温泉街但馬の牛に舌鼓かな

大阪府箕面市　榎本多津美

大泣きの孫と入る温泉それもまた楽し幸せの城崎またいつか

兵庫県小野市　肥田知春

雪靴を脱いで駆けだす赤い足仲間と共に気持ちを新たに

北海道札幌市　細江隼平

翻る蝶や稚魚らの仔細まで見えて直哉の重ねてぞ思ゆ

兵庫県西宮市　山部直也

夏の夜の柳が光る城崎で袖振る彼女と巡る恋七湯

大阪府吹田市　宮田開生

神様の足跡追って文学の道へと進むここ「城の崎にて」

兵庫県明石市　増田知見

駅着くと浴衣の駅員お出迎え梅雨が終わって夏の始まり

大阪府東大阪市　植田紗衣

幼き子連れて巡りし城崎で今亡き夫こうのとりとなり微笑む

兵庫県西宮市　高木文子

夜桜を見ながら歩く温泉街ヒラヒラ散ってる桜の絨毯

兵庫県尼崎市　井原茜

月の道涼しげなる風うし蛙全て忘るる城崎温泉

大阪府寝屋川市　小谷來輝

雪片も悩みも全て呑み込みて流るる大谿古湯の冬日

兵庫県豊岡市　藤田幸美

うっすらと淡雪おおう太鼓橋記念にパチリ宿傘かかげ

兵庫県豊岡市　森田洋

城崎の湯気をまとわりしずり雪朝陽はじきて玉とならん

大阪府大阪市　芝航汰

亡き夫の好物なりしセコ蟹を一人食べたる毫寿なる我は

兵庫県豊岡市　山田まゆみ

早幾とせ共に湯あみの喜びに妹の背をみて我想う

富山県砺波市　松田栄美

湯も優し人も優しきこの土地に温き身体でコウノトリ仰ぐ

大阪府吹田市　市場　さと枝

都から山越え谷越え城崎に火照った頬に吹くは潮風

京都府京都市　妹尾　直弥

屋根のため組まるる木々の完璧な比率の下に身を冷ましをり

大阪府枚方市　上原　優真

城崎の湯けむり立ちて路地静か古き情緒に心ほころぶ

愛知県名古屋市　栗本　衣乃

鈍行の山陰海岸揺られ来て午前七時の城の崎にて

石川県金沢市　清水　彩聖

手湯足湯外湯めぐれば城崎の風はやさしく頬を撫でゆく

北海道札幌市　藤林　正則

湯けむりに冬の月影揺らめいて城崎の夜は夢を結びぬ

大阪府堺市　西川玄汰

枝垂れ柳川と流るる錦鯉澄んだ天色城崎温泉

和歌山県和歌山市　阪本澄佳

城崎の輝く街を歩く音下駄を響かせ笑顔はじける

大阪府寝屋川市　下田紗矢佳

俄雨桃花色に肩を寄せ歩み導くあえかな蛍灯

大阪府大阪市　吉村京花

城崎へ川の流れに湯の流れ人の流れに漂い行こう

神奈川県厚木市　金指有美

空の青川のきらめき鮮やかにほほをなでるは城崎の風

広島県東広島市　面林優花

先客の源氏の君を捕らえたる木屋町通りの花吹雪かな

兵庫県朝来市　高橋久美枝

よくばりでわがままになってしまうの地図には行きたいとこだらけだよ！

大阪府大阪市　日野江美

共連れの藍の浴衣に下駄揃えそぞろ歩きの出で湯きのさき

大阪府寝屋川市　柳澤陽子

出石そばかばん散策ふれあいの酔って楽しむ温泉ワイン

京都府相楽郡　北谷匠

城崎の暮れゆく夕陽秋の宵寂しく冷えた心溶けゆく

東京都新宿区　四方田恭佳

城崎の柳やさしく風に揺れ亡母のおもかげ川面に浮かぶ

福井県あわら市　笹岡一彦

川面渡る涼風に頬冷まされぬ湯の香求めし夏の日の旅

奈良県大和郡山市　水野隆司

秋晴の日本海には鰯雲直哉もこれを見たのだろうか

兵庫県明石市　小田虎賢

城崎の旅の終わりの桜径思い出深し卒寿となりて

兵庫県美方郡　西村美也子

『太鼓橋』を笑顔で詠みし夫は逝き柳並木に面影しのぶ

兵庫県朝来市　田畑洋子

遠き日の君が鼻緒をわが下駄に城崎のみちわれ一人いく

兵庫県神戸市　小菅瑞代